

多文化共生社会の実現に向けた取組は

問 多文化共生社会の実現に向けた①在住外国人に対する支援拡充の取組は。②外国人の受入れに対する認識と今後の取組は。

答 政策推進部長／①在住外国人の支援ニーズを把握するため、令和六年度に実施したアンケートの結果、日常生活に必要な情報を確実に届ける必要があることが明らかになったことから、外国人が転入手続を行う際に、生活をスムーズに始めるための生活情報につながるQRを掲載したチラシの配付を開始した。今後、在住外国人のニーズの把握に努め、

支援の拡充に努めていく。

市長／②在住外国人を含む全ての人が、地域を担う住人として、国籍や文化の違いにかかわらず、互いの人権を尊重し、安心して暮らすことができる社会の実現は重要であると認識している。今後は在住外国人に向けて行っている外国人相談窓口及び日本語教室の運営等の継続的な取組に合わせ、これらの取組を全市民に周知を図るほか、外国人との共生に対する日本人住民の不安や課題に対応できるようニーズの把握に努めていく。

平野 謙



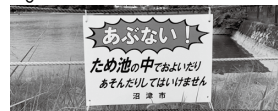
沼津夜間救急医療センターにおける使途不明金問題の真の被害者は

問 沼津夜間救急医療センターにおいて、約二億六千万円の使途不明金が発生したが、この問題の真の被害者は誰か。

答 市民福祉部長／同センターは、三市三町が公金を投入して運営している。よって、使途不明金はそれぞれの市町の住民の財産であると認識している。今後は、使途不明金について、刑事告訴及び民事手続の進捗状況を踏まえた上で、三市三町で対応を協議していく。

問 門池公園のため池におけるさらなる安全対策として、構造を知らせる看板設置や、危険箇所が視認できる程度まで水位を下げる検討は。

答 産業振興部長／地元自治会からの要望を重く受け止め、水難事故を防ぐ注意喚起と危険性を告知する具体的な方法を地元の意見を聞きながら検討する。また、水位を下げることについては、農業用水としての利用や多くの市民に親水公園として親しまれている状況を踏まえ、水利組合や地元自治会等と協議していく。



▲水難事故後、緊急措置として設置された看板

山下 富美子



用語解説



※1 空き家バンク制度 (P.6)

空き家の売却または賃貸を希望する所有者等が当該空き家に関する情報の登録を行い、その情報を公開するとともに、空き家の利用を希望する者に対しその詳細情報を提供する制度のこと。

※2 ヌマカツ (P.7)

これまで学校の教員が指導等を担っていた中学校部活動を、学校以外の地域や民間クラブが主体となって運営するクラブ活動へと移行するもので、本市ではこれを「ヌマカツ」と呼ぶ。

本年9月に、サッカー・陸上競技の2種目において休日の部活動を終了して「ヌマカツ」がスタートしており、今後、他種目についても段階的に移行される。



※3 パイロットオフィス (P.7)

組織全体にオフィス改革を展開する前に、特定の部門や課単位で試験的に新しい働き方を導入する取組のこと。

※4 カベヌマ (P.8)

旧イシバシプラザ跡地を囲む防音壁をキャンバスに見立て、「まちを明るく照らしたい」という思いを込め描かれた大規模絵画のこと。

※5 チームオレンジ (P.8)

認知症と思われる初期の段階から、心理面・生活面の支援として、市町村がコーディネーターを配置し、地域において把握した認知症の人の悩みや家族の身近な生活支援ニーズ等と認知症サポーターを中心とした支援者をつなぐ仕組みのこと。

沼津市では、現在11チームが活動している。